

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「ウサギとカメの話」知ってる？…その「戒め・教訓」は？～

落語家、三遊亭圓歌さん。（1959年、鹿児島県肝属郡（きもつきぐん）生まれ。古典落語、新作落語の双方を行い、お客様に応じた落語講演は、老若男女に人気を博している。2019年3月に四代目三遊亭圓歌を襲名した。）

昭和62年、林家こぶ平さんとともに真打ちに昇進。マスコミのカメラのフラッシュとインタビューは、林家正蔵、三平を祖父・父にもつこぶ平さんに殺到します。隣にいた圓歌さんには誰も見向きしなかったそうです。



私は悔しくて涙が抑えきれなくなって走って外に飛び出し、電車に乗りました。

そこに偶然にも養田実社長（ジュポン化粧品本舗社長）がいたのです。多くの経営者の言葉や中村天風、森信三、石川洋さんたち先哲の言葉をヒントに、笑いを交えながら人生や経営、子育てなどについて、私なりの考えを盛り込んだ落語や講演のスタイルを確立したのは養田社長のアドバイスがあったからです。

「歌さん、浮かぬ顔してどうしたんだ。」

と聞かれ、私は理由を話しました。すると、養田社長はこう切り出したのです。

「うさぎとかめの童話があるだろう。うさぎは、どうしてのろまなかめに負けたのか。言ってごらん。」

私は答えました。

「うさぎはいつでもかめに勝ると油断があったのです。人生は油断をしてはいけないという戒めです。」

と。養田社長は…

「本当にそう思っていたのか。零点（0点）の答えだ。」

と語気を強めておっしゃった後、静かに話されました。

「かめにとって相手はうさぎでもライオンでも何でもよかつたはずだ。なぜならかめは一度も相手を見ていないんだよ。かめは旗（＝ゴール）の立っている山の頂上、つまり人生の目標だけを見つめて歩き続けた。

一方のうさぎはどうだ。絶えずかめのことばかり気にして、大切な人生の目標を一度も考えることをしなかったんだよ。君の人生の目標は、こぶ平君ではないはずだ。賢いかめになって歩き続けなさい。」

さらに養田社長は言葉を続けました。

「どんな急な坂道があっても止まってはダメだよ。苦しいときには…『ああ何と有難い急な坂道なんだ。この坂道は俺を鍛えてくれているではないか。』と感謝しなさい。」

私は養田社長のこの一言で迷いが吹っ切れたのです。

そして、『自分の人生の目標に向かって黙々と歩き続けよう!』と思ったのです。

「1日1話読めば心が熱くなる365人の生き方の教科書」（致知出版社）



人は・・・「こうなりたい!」「あんな人になりたい!」「そのために今の自分より成長しよう!」
と思うからこそ、思い通りにならないことや困難がやってくるのではないのでしょうか。

ということは・・・今、思い通りにならないことや困難がある、悩みもあるということは・・・
「**目標の実現に向けて歩んでいる・行動できている**」という証なんではないのでしょうか。

ただいつも言っていることですが・・・一人で抱え込まずに、保護者・友人・先生方・大人に相談してくださいね。